



大分学習療法だより 第18号



今年初めての研究会ですが、今年度を締めくくる学びの場となった第18回定例研究会が、去る2月18日(土)午後2時30分から大分市内のホルトホール大分で開催されました。

研修では新たな導入事業所さん、学習療法センターの方々を含め40名が、また懇親会にも22名の方のご参加をいただき、盛況のうちに今年度の活動を締めくくることができました。

《プログラム》

【1】研究会

1部:事例発表 大阪シンポジウムでの発表から4事例

2部:総評及び最新情報について 学習療法センター 伊藤副代表

3部:グループ討議

【2】懇親会

場所:ザ・ブリッジ(中央町)

時間:18:00~

【1】研究会

第1部 事例発表



事例発表を熱心に聴く参加者

第1部は、昨年大阪で開催された全国シンポジウムで発表した事例です。まず、学習療法による『気づき』の展開について、中津市の特別養護老人ホーム「いずみの園」が発表。続いて、『楽しい脳の健康教室』と題して、昨年度取り組んだSIB調査事業を機に、広まりつつある脳の健康教室の様子を日田市の介護付有料老人ホーム「ケマツヨシひだか」が発表。次もSIB調査事業をきっかけに日報の書き方などを見直した臼杵市の「四季の郷デイサービスセンター」が発表。最後に、BPSD改善に学習療法を活用し、排泄の自立支援ができたことについて、宇佐市の介護老人保健施設「和光園」の4事例が発表されました。(内容の概要については、本誌第16号に掲載)

第2部 総評及びセンターからの最新情報

第2部は、今回も東京から駆けつけて頂いた学習療法センターの伊藤副代表に事例発表の総評とSIB調査事業について近況報告をしていただきました。

まず冒頭、昨年SIB調査事業に参加した5事業所に感謝状が贈られました。(写真下)





伊藤副代表の総評と最新情報を聴く参加者

総評の中では、奈良県の天理市が脳の健康教室をSIB事業として開始することが決定したとされていました。この経過は今年10月29日に開催される全国シンポジウム（名古屋）で報告される予定で、認知症の予防改善の領域でSIBが実施されるのは世界でも初めてとなるそうです。

学習療法を実施することで、利用者さんの介護度が平均1程度改善することが証明されましたが、運営面では報酬が下がるという矛盾が生じています。この矛盾をSIB事業で、報酬アップにつながるのか？天理市の状況

や他の行政の動きが非常に注目されています。また、全国の学習療法導入事業所がその結果を楽しみに待っていると思います。SIB事業の成果が確認できれば、認知症の予防・改善に努力した施設が報われる時代がすぐそこに来ていることを確信できた学びとなりました。

第3部 グループ討議

第3部はグループ討議です。それぞれの事業所で抱えている課題を持ち寄り、その解決策を探っていこうと、どのグループでも活発に話が進められていきました。

以下はその内容も含め、参加者が抱いた様々な思いをアンケートから拾い上げてみました。今年の活動の総決算として、これまでの研究会の様子とともにご報告いたします。

【学習者の認知症予防・改善が確認された事例】

- ①夜間の不穏によるコール回数が減少した
- ②おむつからリハパンに移行できた
- ③夕方になると落ち着かない方が改善傾向にある
- ④利用者様と信頼関係の構築ができた
- ⑤新規入居の方が早く職員と打ち解けられた
- ⑥利用者様が率先して挨拶してくれるようになった
- ⑦生きる意欲が生まれ、イキイキと笑顔になった
- ⑧嚥下機能が向上、胃ろうから経口摂取になった
- ⑨精神障害の方の発言力、在宅での歩行状態が向上
- ⑩笑顔が増え、認知症状の軽減がみられた
- ⑪幻視幻聴がほぼなくなった



学習療法の実施で、こんなにも改善してくるのかと改めて確認できました。また、大事なことは、認知症の予防とこれ以上進まないよう維持することも再認識できたようです。

【学習スタッフの質の向上が確認された事例】

- ①行動力、発言力が確実に向上した
- ②傾聴の姿勢の構築ができてきた
- ③利用者様の体調変化に早く気付くことができた
- ④モチベーションが上がった
- ⑤声掛けがやさしくなった
- ⑥利用者様の本来の姿に気づいてうれしそうだった
- ⑦気づきが増え日報の書き方が変わった
- ⑧気づきが増え日常のケアの質が向上した
- ⑨コミュニケーション能力が向上した
- ⑩笑顔が増えて自信が出てきた



スタッフの言動の変化に気づくのは、職場の上司などリーダーです。学習療法の実施を単に認知症の予防・改善ではなく、スタッフの質の向上に注目することも大事なようです。

【研究会で学び得たことは？】

- ①天理市でのSIB事業に期待したい
- ②他施設の方との交流で様々な意見が伺えたこと
- ③職員の質の向上がもっと求められてくること
- ④障害のある方の意思決定支援につなげるヒントを得た
- ⑤自立支援とは、心が自立する支援であること
- ⑥ケアの質＝スタッフの質
- ⑦マスターは、現場スタッフの意欲向上に努めるべき
- ⑧実践士を正しく育てるためには、マスターが要となる
- ⑨日報の重要性を強く感じた
- ⑩学習の様子をご家族へ連絡してみたいと思った
- ⑪学習と業務の兼ね合いについて解決策がみえた

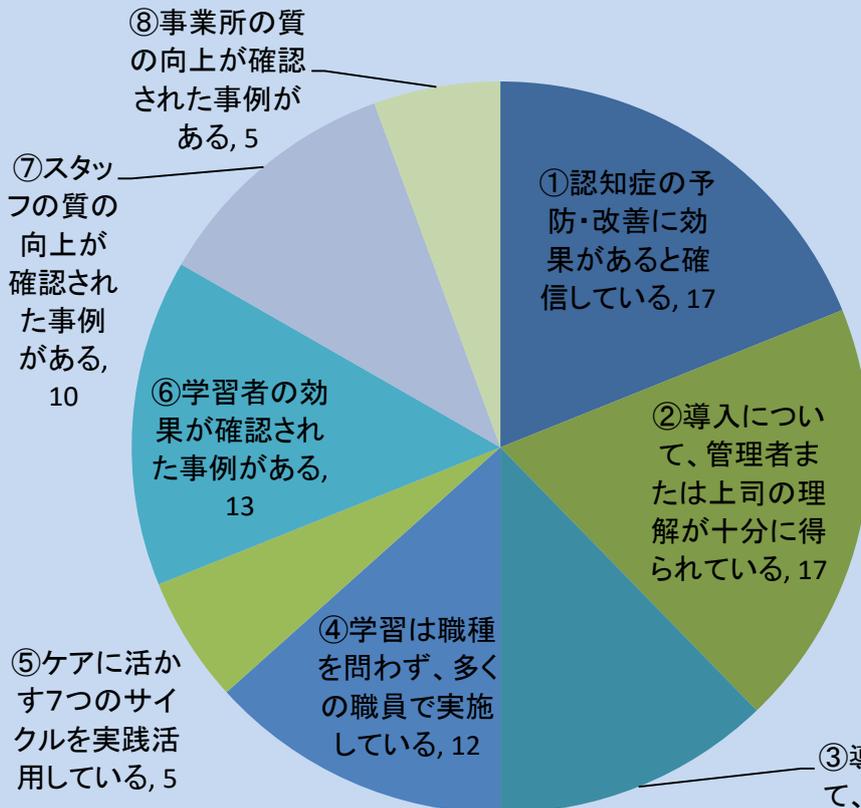


それぞれの事業所で抱えている課題の解決策を得たり、他の事業所の良いところを持ち帰り実践しようと考えたりして、大変学びの多いグループ討議となったようです。

◎アンケート集計結果

Q-1： 学習療法の導入・実施について該当するものを以下からお選びください(総回答数90)

①認知症の予防・改善に効果があると確信している	17
②導入について、管理者または上司の理解が十分に得られている	17
③導入について、職員の理解が十分に得られている	11
④学習は職種を問わず、多くの職員で実施している	12
⑤ケアに活かす7つのサイクルを実践活用している	5
⑥学習者の効果が確認された事例がある	13
⑦スタッフの質の向上が確認された事例がある	10
⑧事業所の質の向上が確認された事例がある	5

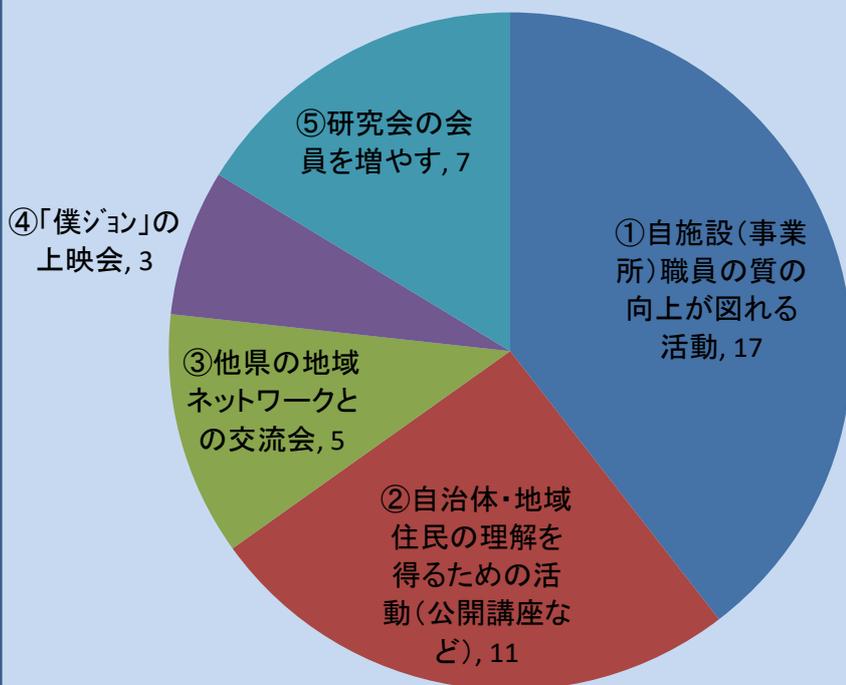


- ①は学習療法の価値感についての質問で、その効果を確認している方が多かった。
- 確信している方は、学習者やスタッフへの効果事例を多く経験している。
- 学習療法の導入について管理者や職員の理解を得ている事業所が多かった。
- 学習療法セクターが提唱する「ケアに活かす7つのサイクル」を実践している事業所は少なかった。
- 事業所全体の質の向上については、確認しづらかったのか少なかった。

③導入について、職員の理解が十分に得られている, 11

Q-2： 今後の研究会活動に期待したいことは？（総回答数43）

①自施設(事業所)職員の質の向上が図れる活動	17
②自治体・地域住民の理解を得るための活動(公開講座など)	11
③他県の地域ネットワークとの交流会	5
④「僕ジョン」の上映会	3
⑤研究会の会員を増やす	7



- 研究会を職員のスキルアップにつなげたいと考えている方が最も多かった。
- 学習療法をもっと多くの人に知ってもらいたいと考えている方が多い。これは、事業所だけではなく、地域に広げたいという意志が伺える。
- 研究会の会員を増やそうという意見もある。これは、学習療法の効果を確認していることから伺える。
- 映画上映会については、実行委員として苦労した方が多かったようで少なかった。

【2】懇親会



研究会終了後は必ず実施される『懇親会』 今回は研究会の現況を取材しようとセンターから来られた、人材育成担当の植村さん、普及サポートチームの福井さんに参加していただき、総勢22名の参加で大変に盛り上がりました。

懇親会のメインイベントは各事業所の近況報告で、会員事業所の報告が終わったあと、エリアマネージャである森園さんからセンターの方々への紹介がありました。

センターのメンバー紹介をする森園さん まず 櫻井さん（大分担当アドバイザー）は、「アドバイザーとして1年が経ちました。まだ自信はないですが、皆さんに助けられて今日を迎えています」と述べられ、福井さんは「大分はいい人がたくさん居ていい所」と大分を絶賛していただきました。植村さんは「大分のような雰囲気在全国に広げられたらと思います」と皆さんと楽しく過ごせた様子を、伊藤副代表からは「大分に来ると元気になります。皆さんの進化を感じるからです」とお褒めのお言葉をいただきました。



それぞれの事業所の近況報告を聴く皆さん



次回は4月15日(土)13:30から
宇佐市の和光園で開催します！

《学習療法研究会へのお誘い》

「大分学習療法研究会」は、学習療法を導入・実践されている施設の皆さまが集まり、学びあう交流の場です。県内の導入事業所で開催していきますので、まだ参加されたことのない施設の皆さま、これから導入をお考えの事業所様も是非ご参加ください。
研究会の活動はこちら・・・

<http://furugo.net/oita-lts.html>